

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第50週 (12/9-12/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		50週	49週	48週	47週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市				千葉県
			12/9-12/15	12/2-12/8	11/25-12/1	11/18-11/24	12/2-12/8
			50週	49週	48週	47週	49週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	1 0.06	0 0.00	29 0.22
	咽頭結膜熱		9 0.50	16 0.89	8 0.44	6 0.33	84 0.63
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	55 3.06	55 3.06	44 2.44	49 2.72	656 4.93
	感染性胃腸炎		142 7.89	131 7.28	102 5.67	67 3.72	671 5.05
	水痘		9 0.50	7 0.39	11 0.61	2 0.11	92 0.69
	手足口病		20 1.11	21 1.17	19 1.06	16 0.89	122 0.92
	伝染性紅斑		8 0.44	11 0.61	15 0.83	5 0.28	48 0.36
	突発性発しん		3 0.17	11 0.61	8 0.44	9 0.50	62 0.47
	ヘルパンギーナ		1 0.06	1 0.06	1 0.06	1 0.06	20 0.15
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.06	9 0.07
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★	321 11.46	184 6.57	75 2.68	48 1.71	1,847 8.67
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	3 0.60	0 0.00	1 0.20	23 0.68
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	9 1.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	40歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定等				
結核	女性	60歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	30歳代	抗体の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査	風しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
播種性クリプトコックス症	女性	70歳代	病原体の分離・同定等	-	-	-	-

・第50週は、結核4件(159)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(19)、播種性クリプトコックス症1件(2)、百日咳1件(135)、風しん1件(48)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

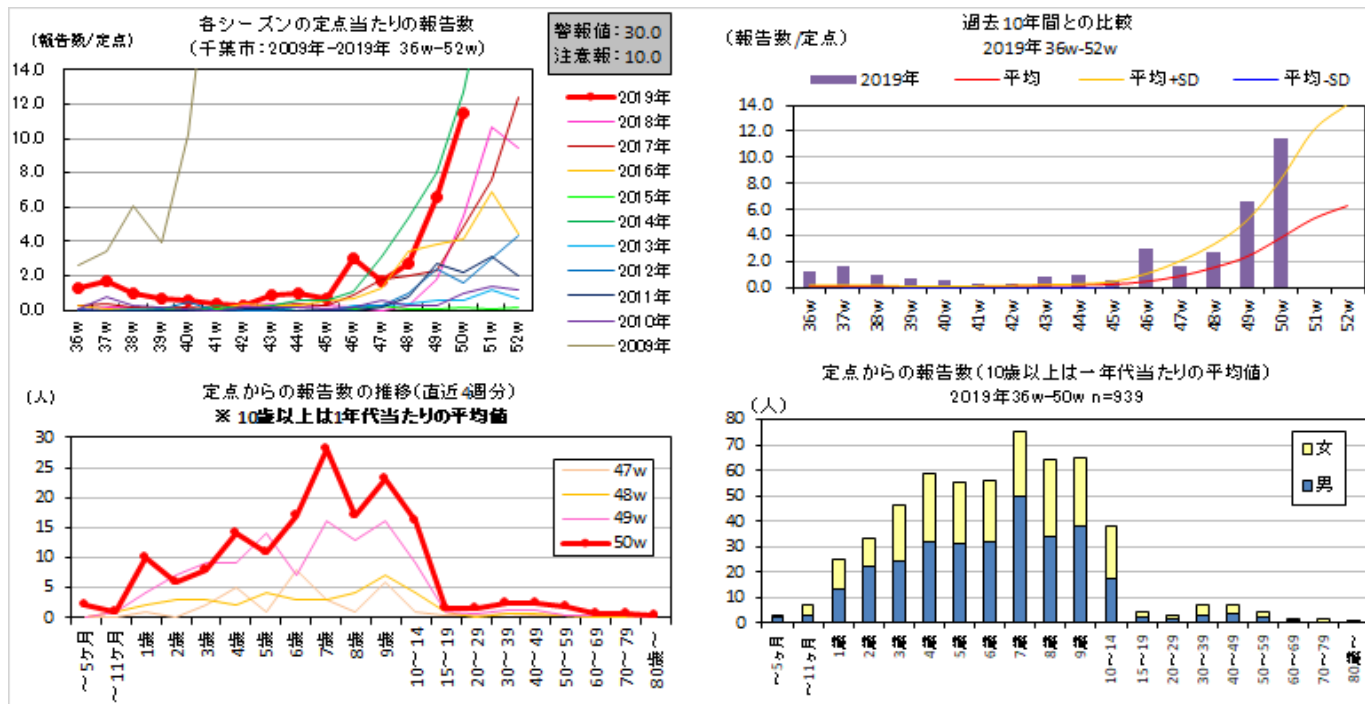
定点当たり報告数 第50週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より横ばいで3.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。
<インフルエンザ> 前週より更に増加し11.46となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べるととても多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

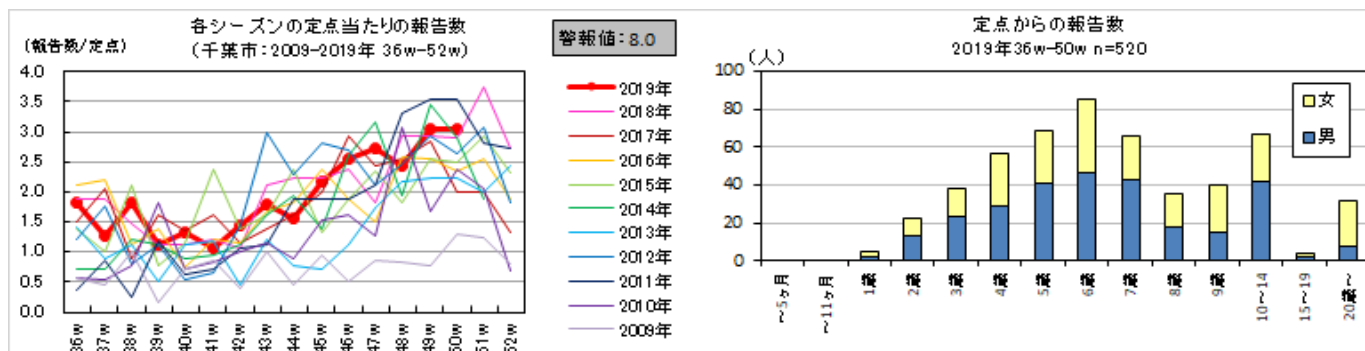
全国レベルの第49週の定点当たりの報告数は9.52となり、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のままとなっています。都道府県別では北海道、青森県、富山県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は8.67で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第50週は前週より更に増加し11.46となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると最も多くなっています。区別の発生状況は、中央区(18.6/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多くの報告がありました。その他、若葉区(12.50/定点)及び美浜区(10.50/定点)でも流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2019年第36週から第50週までの累積報告数は939件で、性別では男性が52.7%(495名)、女性が47.3%(444名)となっており、年齢階級別では7歳(8.0%:75名)、9歳(6.9%:65名)、8歳(6.8%:64名)の順で多く、20歳未満が全体の74.6%(700名)、10歳未満が全体の52.0%(480名)となっています。



	第50週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		注意報	注意報	-	-	注意報	-	注意報
過去10年の同時期との比較		とても多い	多い	多い	多め	多め	多め	多い
昨年の同時期との比較		多い	多い	多い	多い	多い	多い	多い

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第49週の定点当たりの報告数は3.27となり、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では山形県、新潟県、北海道の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は4.93で、全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の第50週は前週から横ばいで3.06のままとされており、過去10年の同時期と比べると多めのままとなっています。区別の発生状況は、緑区(5.25/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第50週までの累積報告数は520件で、性別では男性が54.2%(282名)、女性が45.8%(238名)となっており、年齢階級別では6歳(16.4%:85名)、5歳(13.3%:69名)、10歳代前半(12.9%:67名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第49週の累積報告数は2281件となっており、昨年の同時期を下回っていますが、過去10年の同時期と比べると、2013年(14304件)、2018年(2586件)に次いで3番目に多くなっています。都道府県別では東京都(852件)、神奈川県(292件)、千葉県(199件)の順で多く報告されており、依然として関東地方で多くなっています。千葉市では第50週に1件の発生届があり、2019年の累積報告数は48件となりました。性別では男性が75.0%(36名)、女性が25.0%(12名)となっており、年齢階級別では30歳代(33.3%:16名)、40歳代(29.2%:14名)、20歳代(16.7%:8名)の順で多くなっており、ワクチン接種歴は無又は不明が全体の8割近く(79.2%:38名)を占めています。

